

宍粟の木育について



兵庫県立森林大学校 6期生

増池 与恵
Masuike Atae

「宍粟市木育推進方針」は
こちらのQRコードから



森と共に生きるまち宍粟の みどりじまん新聞



Vol. 18
令和7年3月号



—ご紹介—

この春、森林大学校を卒業される増池さん。卒業論文のテーマには、「木育」を選びました。増池さんが森林大学校での学びを活かし、木育についての調べたことや木育に対する思いを、ぜひみどりじまん新聞でみなさんに紹介させていただきたいと思い、今回の記事の作成に至りました。増池さんは、卒業後は森林組合に就職し、ご活躍される予定です。

<撮影場所 しーたん広場>

豊かな森林を有する宍粟市でも、木育に関する様々な取組が進められています。平成三十一年には、木育の推進に積極的に取り組んでいくことを示すため、ウッドスタート宣言が行な

われていくところ。また、木育に関する様々な取組が進められていくところ。また、木育に関する様々な取組が進められていくところ。また、木育に関する様々な取組が進められていくところ。

「木育」とは、「子どもをほめ、育て、育てる」という意味。また、木育に関する様々な取組が進められていくところ。また、木育に関する様々な取組が進められていくところ。

誕生祝い記念品事業



宍粟市では、子どもたちの豊かな感性や想像力、森林や木への思いやりの心を育むことを目的として、宍粟材を使った木のおもちゃを市内の新生児にプレゼントする事業を実施しています。

われしました。さらに、令和四年に策定された「宍粟市木育推進方針」の中では、森林や木を様々な分野で活用する「木育」を活かしたまちづくりを進めていくことが示されています。

「みどりじまん新聞」とは？

「木育」の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る「みどり」の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。主に「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆した記事を掲載し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてまいります。

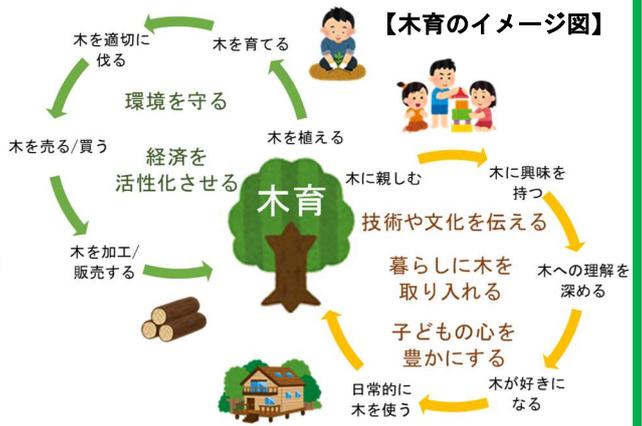
バックナンバーはこちら



宍粟市の木育の視点と目標 「木育かきくけこ」

宍粟市では、「木育かきくけこ」の五つの視点をもとに、木材・木製品の利用促進や森林や木との関わりを深める様々な事業が展開されています。

木育の視点と目標 「木育かきくけこ」	
か 環境を守る	森林の循環の仕組みづくりを進めることで良好な森林環境の保全を進めるとともに、木を適切に使うことが森林や地球の環境を守ることにつながることを理解して行動できる人づくりを進めます。
き 技術や文化を伝える	木材の利用技術や森林の恩恵から生まれた文化を生かし、体験・学ぶことができる機会を創出することや広く普及する活動により、森林から生まれた技術や文化を次の世代に受け継いでいきます。
く 暮らしに木を取り入れる	森林や木とのふれあいを通して木の良さを知る機会を創出し、暮らしに木を取り入れたいと思う意識の醸成を図るとともに、自ら選んで地元の木を暮らしに取り入れる人・環境づくりを進めます。
け 経済を活性化させる	地元の木の積極的な活用や高付加価値化を推進するとともに、材としての活用にとどまらず、観光振興や健康づくりなど様々な分野で森林の総合的な利活用を推進することで、地元経済の活性化につなげます。
こ 子どもの心を豊かにする	子育てや教育において、森林や木とふれあい、森林や木の良さや温もりを感じるができる環境づくりを進め、感性豊かな子どもの心と体の成長を促すとともに、郷土愛の醸成につなげます。



市民が木育の活動を通して森林や木との関わりを深め、市への郷土愛を深めるとともに、様々な分野において木育の視点を持って取組を進めることで、森林の総合的な利用の推進をめざしていきます。

木育への思い

私が「木育の在り方と学生の関わり方について」を卒業論文のテーマに選んだ理由は、森林大学の学校の活動の一環で市内外のイベントに参加し、子どもたちにモルツク(木の棒で木のピンを倒して得点を競う競技)などの木を使った遊びの指導をすることがあり、その体験の中で、ただ子どもたちに

楽しんでもらうだけでなく、「森林大学校生だからこそできる木育」があるのではないかと思うようになったからです。

木育の目的のひとつは、人と木や森林との関係を主体的に考えられる豊かな心を育むことです。たとえば、森林大学校生が木育ワークショップに指導員として参加することができれば、大学校で学んだ知識や技術を活かして、参加者に森林の大切さや木の良さなどについて理解を深めてもらいながら、木とふれあう機会を提供できるのではないかと思えます。

また、私が木育に関して研究を進める中で感じたことは、現在木育の取組として行われているものは子ども向けのものが多いということです。もちろん、子どもへの

木育は、幼い頃から五感で木の良さを感ずること、感性豊かな心と体を育むことにつながると思います。観点からとても大切なことだと思います。しかし、木育は全ての人を対象とした取組なので、これからは子どもだけでなく、大人への木育にも力を入れていく必要があるのではないのでしょうか。たとえば、大人向けの木育として、お箸

やスプーン、楽器などのオリジナルグッズ作りやDIY教室の開催などの取組ができれば、木に興味を持ってくれる人が増えると思います。親子で一緒に子どもの机や椅子などを作るワークショップがあれば、家族の思い出の品を作ることもできるし、親子で木や森林のことを一緒に考える良い機会がつくれると思います。

総務省の調査では、六十代までの全ての世代において、情報収集のツールとしてインターネットを活用する人の割合が最も高くなっています。SNSを活用して、木や森林の魅力などを発信していくことも有効な手法の一つだと考えます。

私は大阪の高校を卒業後、森林大学校に入学し、宍粟市で暮らしました。宍粟市の魅力は、やはり豊かな自然に恵まれているところであり、この地で林業を学ぶことができ、本当に良かったと思っています。宍粟市のみならず、この自然の恩恵を最大限に受け、暮らしの中に木育を取り入れながら、心豊かに過ごされることを願っています。



専修学校
兵庫県立森林大学校
Hyogo Prefectural College of Forest Management
(宍粟市一宮町能倉 772-1)

森林経営や森林林業に関わる
人材を幅広く育成する学校
【学校見学 随時受付中】

学校 HP

宍粟市は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組みます